

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501870		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム南与野		
所在地	埼玉県中央区鈴谷1-24-1		
自己評価作成日	令和 1 年 11 月 12 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 2 月 28 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 1 年 11 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今期のスローガンである“3つのS”を大切にご家族からも地域からも信頼され愛されるホームを目指し、自立支援介護を意識し認知症になっても役割を持ち、予定や楽しみのある生活を当たり前を送っていただけるようケアの充実と職員のスキルアップに努めています。

“3つのS”
Smile(笑顔)入居者様・ご家族・スタッフの笑顔を大切にします
Safety(安全)安全なサービス提供で安心して暮らしていただける環境を作ります
Specialty(専門性)認知症ケアの専門性を高め自信と情熱をもってケアにあたります

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、ホーム独自のスローガンとして「3つのS(笑顔・安全・専門性)」を職員と共に検討して掲げ、日々の入居者への支援の中で実践している。入居者一人ひとりの思いや暮らし方の意向とあわせ、心身の状況を丁寧に把握し、毎日の夕礼やユニット会議などで職員全体が情報を共有しチームで支援を行っている。クラブ活動(書道・カフェ・手芸等)は、ユニットごとの活動ではなく、事業所全体の活動としており、希望した活動に参加することでユニットを超えての顔なじみの関係が作られている。職員は、入居者と共に楽しみ、喜びにつながるよう、工夫している。地域との関係も大切にされ、天気の良い時は近隣の住宅街を散歩し、向いの保育園の園児との交流や近隣住民とあいさつを交わす関係の築きができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今期のスローガンである“3つのS”は全職員が誰にでも説明でき実践していくことを目標としています。	スタッフルームにケア信条・理念が掲示されている。事業所独自のスローガンは職員の意見も取り入れて「3つのS・(笑顔・安全・専門性)」を決め、毎日夕礼で職員同士話をし共有・意識統一をしている。	今期のスローガン「3つのS」を根拠に、職員一人ひとりがそれを具体的に支援できる事を望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お向かいの保育園とは、毎日の散歩時のあいさつや毎月のお誕生日会へのお誘いを受けるなどで交流を継続しています。	自治会の催し物に参加したり、ハーモニカ演奏などの地域ボランティアを依頼したりしている。保育園の行事に参加し、園児とも交流をしている。天気の良い日は、散歩で近隣の方と挨拶など交流が来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催し情報発信を行っている。台風19号の際はご近所の高齢者1名の避難を受け入れました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動を報告し、ご家族や地域の方からご意見をいただきホーム運営やサービス向上に役立てています。	事業所での行事や日々の出来事の報告のほか、意見交換、情報交換をしている。会議で取り上げられた事案は、サービス向上に役立てよう職員で話し合い、今後の課題として取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政からも参加していただくと共に、生活保護受給者担当SWの定期的な訪問時に情報交換を行っています。	運営推進会議への参加がある。電話や窓口に出向き相談や報告など行っている。役所の職員も定期的に訪問し、利用者状況を共有している。研修等も出来る限り参加して、職員の意識向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回、身体拘束廃止委員会の開催と、本社からの不適切ケアに対する注意喚起や研修等で身体拘束ゼロの継続に取り組んでいます。	定期的研修を行っている。「虐待・不適切なケアチェックシート」を2ヶ月に一度記入し、定期的に振り返りを実施している。日々の関わりの中で、「不適切ケア」は些細な事でもその都度管理者が個別に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・不適切ケア・身体拘束チェックシートを定期的実施しユニット会議等で共有を行い、声掛けや接遇についても研修を重ねています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年5月の家族会では「後見人制度」を取り上げ、ご家族、職員で学ぶ機会を設けました。ご家族も高齢となり様々な手続きが困難になっているケースもあり個別にご紹介や説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は営業担当者やAMG、ホーム長が対応しています。今秋の消費税増税に伴う介護報酬改定や新しい加算の創設については資料を添付したお知らせを送付すると共に同意書をいただきました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回ご家族様アンケートを実施しています。ご意見箱の設置や運営推進会議でもご意見ご提案をいただきホーム全体で共有しホーム運営に反映できるよう努めています。	本部でのアンケートが年1回ある。集計後、結果を誰もが見ることが出来る場所に掲示している。意見箱もあるが、面会時に職員から声かけをして、家族からの要望など聞き、改善できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回職員アンケートを実施しています。毎月のユニット会議や定期的な個別面談でホーム運営について積極的に意見を出してもらうことで職員もホーム運営に携わる一員であることを個々が自覚しています。	業務・備品購入などは、各ユニットで検討される。管理者は日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、個人面談を年1回実施して、話し易い環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入により職員一人ひとりの目標や希望を聞き取りそれに向かい努力することで昇格でき、給与アップの実現とスキルアップが図れることを支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格支援制度の活用と多様な研修開催で職員一人ひとりのスキルアップを支援し、無資格からでも不安なく仕事ができる環境作り(OJT)に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームのレクに参加したりお互いのホームにヘルプ人材を出し合うことが交流につながり勉強になっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの中から課題を明確にし傾聴多く統一したケア(サービス)を行うことで不安を取り除き信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご意向はスタッフ全員で共有し来訪された際には近況報告し関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題には優先順位をつけプランに位置付けサービスを検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が人生の先輩であることに敬意を払い、その言葉に学ぶことがあることに感謝しホームにおいては暖かい関係作りを目指しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに入居されてからも家族の絆を深めていただけるよう行事への参加を呼びかけ共に思い出作りができるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や外泊の支援を積極的に行い、ご友人の来訪も歓迎し次回につなげる支援を行っています。	日々の関わり、会話等から情報を把握し、親戚、友人等と外出など継続的な交流ができるよう働きかけている。身元確認など防犯管理にも配慮しながら、友人知人が訪ねやすい雰囲気作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりがホームというコミュニティの一員であることを職員が認識し入居者様同士が良好な関係性を築けるよう必要な介入を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動されたご家族から近況報告が入った際にはお話を伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝のあいさつなど声掛け多く行い入居者様の状態把握や都度のご希望をお聞きしています。コミュニケーションが難しい場合でもご家族から聞き取り行い対応しています。	日々の関わり中で職員から声掛けし、要望等何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。気づきは、記録して共有している。一人ひとりの要望を可能な限り聞き入れ、叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントをユニット職員で共有し、職員個々の聞き取りで新しい情報あれば記録に残し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきを大切に日々の介護記録を通して現状把握を行っています。特に心身の状態については特変に注意し申し送りを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン担当者や居室担当を中心にカンファレンスを開催するよう指導しています。毎月のモニタリングをもとにケアの見直しを行いご家族のご意向も反映させたプラン作りを行っています。	本人家族の意向、要望を取り入れ、定期的に介護計画を見直している。心身の状態に変化が生じた場合は、随時モニタリングを行い、利用者が自分らしく過ごせるような介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアの工夫を職員全員で共有し日々の記録を次のケアに活かすことを目標にしたPDGSサイクルを意識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の柔軟なケア(サービス)を行うため常に入居者様、ご家族のニーズに敏感に対応するよう心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の入居者様の誕生日レクでは入居者様との外出を楽しんでいただくことが多く、ファミレスや回転寿司、デパートへの買い物などを行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの往診やご本人、ご家族からの希望による在宅からのかかりつけ医の受診や往診を継続していただいています。	かかりつけ医は家族や入居者の意向に沿って、医療機関を決定している。週2回の往診の他、訪問歯科・訪問リハビリ・マッサージなども行っている。受診時の情報共有は、個人記録や伝達帳に記載し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡可能なオンコール体制が整っており夜間の緊急時でも相談や指示を仰ぐことができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院が決まれば、病院のMSWと連携を取り、ご様子を伺いに行き(実調)スムーズな帰設となるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から美病状についての説明を行い、ご本人、ご家族のご希望、ご意向を伺い、ホームでできることを整理し支援できるよう看取り介護の研修重ねています。	契約時に重度化や終末期のあり方に関して、事業所で出来ること出来ないことについて説明している。終末期などについては、医師・家族・事業所職員で繰り返し話し合い、利用者の状態により、可能な限りの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにより職員全員が対応できるよう定期的な研修や訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な研修と訓練で有事に備えています。	年2回の消防避難訓練を入居者、職員が参加の上、行っている。消防署員立ち会いの際は近隣に周知している。備蓄品等も水害等想定し、保管場所を1階から2階へ移動した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や不適切ケアの研修の中で声掛けについて勉強し丁寧な言葉使いを行うよう指導しています。	業務繁忙時でも利用者に対して不適切な態度とならないように、取り組んでいる。一人ひとりの気持ちを考えられるよう、対応方法等を研修や会議で話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	急がないケア、待つケアを規範とし入居者様が自ら自己決定できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースに合わせた個別ケアの実践しています。選択制のクラブ活動で入居者様の趣味や特技などの予定を持つ楽しみを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れあればすぐに着替えていただくなど乱れた身だしなみとならないよう整容には注意しています。お化粧品のご希望にも応え、いつまでもおしゃれを楽しんでいただけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の持ち込みの食材などで個別にお好きな物を召し上がっていただいています。また、お盆拭きなどは入居者様から申し出られ一緒に片付けのお手伝いをしていただいています。	専門業者が献立、料理を担当している。家庭菜園で収穫した野菜を献立にいれることもあり、利用者は、下膳やテーブル拭きなどを行っている。希望食はイベント食・デリバリー・外食などを活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日にお一人1000～1500ccの水分摂取量が確保できるよう工夫しています。食事量が少ない入居者様には補助食品などご用意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月4回の訪問歯科との連携で口腔ケアに対してアドバイスをいただきお一人おひとりに合わせた口腔内の清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が困難な入居者様でもできる限りトイレでの排泄を継続できるよう取り組んでいます。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンや生活習慣を把握し、早めの声掛けやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。汚物はそのつど片付けるよう清潔と自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ユニットによってはヤクルトの提供を行ったり、水分補給の時間を増やしたりと自然排便に向けた工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日固定ではなく週2回以上の入浴ができるよう声掛け行い実施しています。	入浴日は、利用者の希望や体調に配慮して、3日開けないように行っている。入浴できない時は、曜日の変更やシャワー浴、清拭で対応している。また、ゆず湯や入浴剤で温泉気分を味わうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる入居者様が数名おられ昼食後一時間ほど居室で休むことが習慣となっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故のないよう研修を重ねています。薬の目的、副作用についても薬情のファイルで全職員が把握し服薬が入居者様の生命維持に直結することを共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クラブ活動を実施し趣味や特技を続け予定のある生活を楽しんでいただけるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩とは別にご家族の協力もいただきながら個別の外出支援を行っています。	移動距離・時間等が利用者の負担とならないようにし、天気の良い日には周辺の散歩に出掛けている。散歩で近隣の方と挨拶を交わしたり、外食や買い物などに出かけ、ニーズに沿った支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解をいただき個別にお財布を持たれている入居者様はいらっしゃいます。散歩の際コンビニに寄りご自分のお財布から支払いを行い買い物を楽しんでおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている入居者様がおられ自由にご家族に連絡を取られています。他の入居者様にもご家族への連絡はいつでも可能であるとお伝えしご家族にもご協力をいただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは入居者様と一緒にしています。車イスの入居者様も時々ソファに座っていただいたとき職員との談笑の時間を設けています。	リビングにはソファや季節ごとの掲示物、利用者が作成した塗り絵や写真が飾ってある。それぞれが思い思いの場に座り、雑誌や新聞などいつでも読めるように置かれている。畳スペースもあり、温もりの感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの食席は固定され入居者様自身の居場所となるよう工夫されています。入居者様同士の会話では時々職員が介入し、入居者様のご負担にならないようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が安心して生活できる環境作りを行う中で、ご家族のご協力をいただきなじみの家具をお持ちいただいたりしています。	仏壇・テレビ・写真・携帯など愛着があるものが配置され、できるだけ使っていた物を持ち込みしている。居室で編み物や読書をして過ごす方もいる。居室の掃除は、職員が毎日行い、清潔維持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「もてる力」に目を向けた自立支援介護に取り組み、ADL向上だけでなくQOLの向上も目指しています。		